

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2729700027		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家大正		
所在地	〒551-0012 大阪市大正区平尾3-14-8		
自己評価作成日	令和4年10月20日	評価結果市町村受理日	令和4年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アーケードのある商店街の中に施設があり商店などもある為、入居者様とも買い物や散歩など気分転換をしていただきやすい環境がある。近くには大きな公園もある為、春には桜、秋には紅葉やイチョウなど四季を感じていただくことができる。又、商店街の方々のご理解もあり商店街行事への参加や地域の町おこしイベント等に参加することによって一緒に地域を盛り上げています。又、コロナ禍で外出、面会制限がかかっている際でも施設内でも催しや毎月のイベントを行い、お写真などをご家族様や運営推進会議などに添付することで地域の方々にも施設の情報を発信している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商店街の中にあり、商店街組合に加入し、運営推進会議に参加もあり、地域連携・地域交流に積極的に取り組んでいる。コロナ禍のため通常の地域交流は困難であるが、事業所の食材や日用品の購入、玄関前スペースの提供等を継続している。時期を考慮しながら、利用者が商店街に出かけたり、公園や商店街のイベントへの参加やスペースの提供、事業所内イベント時の地域の人からの協力等、可能な範囲で地域交流を再開している。近隣の散歩、毎月のイベント、ユーチューブも活用した日々のレクリエーション、家事参加等、日常生活の中で楽しみながら機能低下が予防できるよう努めている。利用者個々の身体状況や生活の様子を、毎月文書や写真で家族に伝え、ブログでも発信している。医療連携体制を整備し、希望に応じて、重度化・看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	株式会社ケア21はマネージャー以上を経 営理念の伝道師として内容の共有、理解 を深める取り組みを実地している。施設で は毎朝の読み合わせを行っている。	事業所の「運営方針」と「年間ビジョン」に、地域密 着型サービスの意義を明示している。事業所の 「運営方針」は「職員閲覧ファイル」に綴じ、「年間 ビジョン」は1階の事務所に掲示し、また、法人 の「経営理念」は朝礼で読み合わせを行い共有を 図っている。管理者が期末に実践状況の振り返り を行い、次年度のビジョンに反映できるよう取り組 んでいる。	フロア会議等を活用し、職員が参画し て定期的に「運営方針」や「年間ビジョ ン」の実践状況を振り返る機会を設 け、実践に向け具体的に組み込ま れることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられ るよう、事業所自体が地域の一員として日常的 に交流している	日用品や食材、イベント物品など商店街 内の商店を利用し交流を図っている。施 設玄関先に小休憩していただけるスペ ースもあり地域の方々と交流しやすい。又、 商店街イベントの参加やイベント時のス ペースの提供、組合にも参加している。	商店街の中にあるため、商店街組合に加入し、商 店街から運営推進会議に参加があり、地域連携・ 地域交流に積極的に取り組んでいる。コロナ禍の ため通常の地域交流は困難な状況であるが、事 業所の食材や日用品の買い物、玄関前スペース の提供等は継続している。今年度は、時期や時 間帯を考慮しながら、利用者が公園や商店街に 出かける機会を設けている。また、公園でのイベ ントへの参加、商店街のイベントへの参加と玄関 前スペースの提供、事業所内イベント時の地域の 人からの協力等、可能な範囲で、地域交流を再 開している。グループホームネットワーク・介護連 携相談室(zoom)に参加し、地域とのネットワー クづくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	商店街内外の方のボランティアの受け入 れを行っているが、昨今のコロナ渦の為 制限もあり、イベント時の物品の貸し出し などを行っている。(今年は施設内にて沖 縄民謡を行い、近隣施設職員より沖縄の 着物を借りる)		

グループホーム たのしい家大正

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様より頂いた意見を施設内会議の議題にあげ共有し、ケアの改善に努めている。又、事故報告、ヒヤリハットの提出状況を報告し施設全体で発生している情報を共有し危険予測訓練を実地し早期対応ができるように努めている。	利用者・家族・地域包括支援センター・地域代表（商店街店舗2軒）・事業所職員を構成委員として、2ヶ月に1回開催している。コロナ禍のため書面開催とし、議事録と資料を全家族に郵送し、他の構成委員には手渡し、利用者状況・事業所状況・事故ヒヤリハット事例・感染発生状況・身体拘束適正化委員会等を報告している。返信用紙を同封し、返信された意見・質問・情報等を次回の議事録に掲載し共有している。玄関に閲覧ファイルを設置し、議事録を公開している。	構成委員として知見者の参加が得られるよう、取り組まれることが望まれます。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導・事故報告・運営推進会議の報告や施設パンフレットを区役所においていただいている。	運営推進会議（書面開催）を通して、地域包括支援センターと連携している。区の支援課と協働し、福祉の支援を要する利用者支援を行っている。市からのメールでコロナ関連の情報提供を受け、事業所の感染予防策に反映している。相談や質問等があれば、内容に応じて市や区に主に電話で問い合わせ、適正な運営につなげている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度身体拘束適正化委員会を実地。施設内での共有を行い、ご家族様に報告を行っている。	「身体拘束適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。管理者・副主任・介護支援専門員・介護職員を委員とし、主治医を外務委員として、3ヶ月に1回「身体拘束適正化委員会」を実施している。委員会では、拘束事例がないことの確認を行い、拘束解除後の状況確認やセンサーの適正使用等について検討している。議事録には、主治医（外務委員）の所見の記録もある。委員会の議事録はパソコン内で共有し、チェックにより職員の周知を確認している。法人共通の年間研修計画に沿ったオンライン研修で、年に2回「人権及び虐待・身体拘束防止研修」を実施し、パソコン内で受講を確認している。「虐待の芽チェックリスト」による自己点検を行い、集計結果をフロア会議で共有し不適切ケアの防止に取り組んでいる。玄関は施錠しているが、フロアの入り口・エレベーターは施錠せず、利用者に外出の希望があれば職員が同行し閉塞感を感じないよう支援している。	「身体拘束適正化委員会」で、スピーチロックについての検討も行ってはどうか。

評価 項目	評価 項目	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	株式会社ケア21では年に2回の虐待防止研修を実地。施設内でも随時会議内で話し合いを行っている。又、研修時に個別でアンケートを実地している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて理解を深め、必要に応じて支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご理解いただけるまでご説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケート、施設に来所された際やお電話などでお伺いした意見、内容を把握し運営に反映している。	家族の来所時、面会時(予約制・短時間・相談室で)・電話連絡時等に近況を伝え、家族の意見・要望の把握に努めている。毎月「連絡帳」(担当職員が利用者個々様子を伝える)、写真、「バイタルチェック表」(訪問看護師が健康状態を伝える)を、2ヶ月に1回運営推進会議議事録(利用者・事業所状況を伝える)を郵送し、意見・要望を表しやすいように取り組んでいる。法人が年に1回満足度アンケートを実施し、集計結果を事業所にフィードバックしている。把握した家族の意見・要望は、個別に対応したり、事業所の運営等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内にて業務改善を提案する機会が設けられており、結果を共有し実践につなげている又、フロア会議前に職員一人一人から議題を募り会議時に検討する。	毎月各フロアでフロア会議を行い、利用者についての情報共有や検討、業務・行事・事故ヒヤリハット事例についての検討を行っている。フロア会議の前に、管理者層が各フロアの職員一人ひとりから議題や意見を聴きとり、職員の意見・提案を反映できるよう取り組んでいる。日々の検討事項については、管理者層が職員の意見を集約し、申し送りノートで共有している。定期的には年に1回、随時にも面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会も設けている。職員アンケート(年1回)・「業務改善提案書」等、法人に意見・提案を伝える仕組みもある。	

グループホーム たのしい家大正

評価 項目	評価 内容	外部評価	
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度という人事考課制度にて職員の努力や実績を把握し給与に反映している。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度自己評価、自己目標設定を行い目標の達成に向け努めている。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク・介護連携相談室に参加し取組や意見交換などを行っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメント時や入居時の診断書、ご家族様のご希望などを職員間で共有し、施設に早く馴染み安心していただけるようコミュニケーションを図ります。	
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の見学時やアセスメント時に不安なことやご希望をしっかりと把握し初期の関係づくりに努める。	
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント後に行う入居判定会議にて注意点を話し合いプラン作成に反映している	
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力の維持を大切にし、日常生活動作を主とし、一緒に生活することで時間を共有している。	

グループホーム たのしい家大正

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その方に合わせた面会などを依頼しておりご家族様と入居者様の関係をフォローする。又、現在も面会制限がある為、月初のお便りやお電話などで情報の提供を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の病院や薬局、近隣のお店など継続できるものは支援しています。又、ご入居者様のご友人の方などのご面会依頼もある。	馴染みの人や場所との関係継続について、コロナ禍のため通常の取り組みは困難な状況であるが、予約制・短時間・相談室での家族との面会を再開している。友人ともガラス越しに面会できるよう工夫している。時期や時間帯を勘案し、近隣の公園や商店街への散歩、馴染みの店舗の利用、沖縄に因んだ地域イベントへの参加や事業所イベントの開催等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の間でのコミュニケーションを円滑に行えるよう常日頃よりその方にあつた声掛けを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを保つため、相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様からご希望が伝えられない場合でも事前にご家族様から情報を提供していただく。又、ご入居者様ご本人様の生活環境などをもとに表情などから気持ちを汲み取れるよう支援する。	「フェイスシート」の「生活歴」「趣味・嗜好」「家族・本人の主訴や要望」欄を活用し、利用者の思いや暮らし方の希望等の把握に努めている。入居後のコミュニケーションの中で聴き取った情報はフロア会議等で共有し、ケアプランの見直し時に更新する「フェイスシート」に追記している。把握した内容は、ケアプランや支援に反映できるよう取り組んでいる。把握が困難な場合は、表情や反応から汲み取ったり、家族からの情報を参考に、利用者の思いに沿った支援ができるよう努めている。	

グループホーム たのしい家大正

評価 項目	評価 項目	項目		自己評価	外部評価	
		自己評価	外部評価	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		入居前などの状況に関しては、アセスメントを行い、施設内職員での情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている		介護記録・カンファレンス等で情報の共有を行いそれをもとに、訪問看護、往診時に情報の共有に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している		入居者様やご家族様の希望に合わせカンファレンスを行いケアプランに反映している。	「フェイスシート」「ケアチェック表」をもとに初回のケアプランを作成している。サービスの実施状況は、システム内の「介護記録」に記録している。毎月フロア会議で、利用者個々の情報共有や検討を行っている。3ヶ月毎に「評価表」によるモニタリングを行い、変更がなければ6ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。また、状態の変化等、必要時には随時ケアプランを見直している。ケアプラン見直しの際は、「評価表」によるモニタリング・「ケアチェック表」による再アセスメント・「フェイスシート」の更新を行い、サービス担当者会議を開催して検討している。関係者の意見があれば、サービス担当者会議の議事録に記録して反映している。	ケアプラン内容の周知と理解、ケアプランにもとづいた介護記録の作成の浸透と定着に向け、引き続き取り組まれることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		介護記録・ケアプラン・アセスメントシートなどを活用し介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		面会時やお電話、月初にお送りしているお便りなどで近況を報告、日頃の変化を伝えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		地域の取り組みへの参加、商店街での交流。ボランティアの受け入れ方法を随時検討することによりかかわりを絶たないよう努めています。		

グループホーム たのしい家大正

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時施設協力医の説明を行っているが、昔から馴染みのある病院がある場合はご家族様に選択していただいている。	入居時に、事業所の協力医療機関について説明し、また、かかりつけ医を継続できることも説明し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。協力医療機関から内科・精神科・歯科の往診が受けられる体制がある。訪問看護の訪問が週に1回あり、健康管理や主治医との連携を行っている。通院での受診については家族同行を基本とし、必要に応じて主治医が紹介状で情報提供している。受診(往診・通院)については「介護記録」「支援経過記録」に記録している。訪問看護は「バイタルチェック表」に記録し、必要時は「介護記録」にも記録している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護に来ており健康上他の確認。その際に気になることがあれば報告、相談をしている。協力医療機関も24時間オンコール可能の為、ご入居者様の急な状態の変化の際などのサポート体制も整っている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や地域相談員、ご家族様と連携を密にし、必要に応じてカンファレンスを開催している。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に関わる指針について説明し同意を得ている。重度化した場合には医師とご家族様と事業所で話し合いを重ね、個々にあった対応を行っている。	契約時に、「重要事項説明書」内の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。また、「急変時・終末期における医療などに関する意向確認書」で意向を確認している。重度化を迎えた段階で、主治医・家族・管理者がカンファレンスを行い、家族の意向を確認している。家族に事業所での看取り介護の希望があれば、主治医・事業所が「看取り介護の同意書」を作成している。サービス担当者会議を実施して看取りに向けたケアプランを作成し、主治医・訪問看護師等と連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。経過については、「支援経過記録」に記録している。年間研修計画に沿って、「看取り介護」についてオンライン研修を実施している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを策定しており、施設内にて周知している。又、消防で実地している救命講習にも参加している。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実地している。2回の内1回は夜間想定で実施している。訓練時には近隣の消防署職員の方々に立ち合い指導を行っていただいている。	年2回、災害時の避難訓練を実施している。令和3年11月に、消防署立会いの下、昼間想定で、可能な利用者は参加して、通報・避難・消火(水消火器使用)の訓練を実施している。令和4年5月は、昼間想定で、可能な利用者は参加して、通報・避難の訓練を実施している。実施後は、「消防訓練報告書」に訓練内容・感想・今後の課題等を記録している。報告書をパソコン内で閲覧し、職員全員に周知を図る仕組みがある。令和4年11月に、夜間想定訓練を予定している。商店街から運営推進会議に参加があり、商店街と協力体制を築いている。年間研修計画に沿って、「業務継続(災害)」についてオンライン研修を実施している。備蓄については、法人が支給・管理し、事業所に保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活状況を把握し、個人の人格を尊重しながら声掛けを行っている。	年間研修計画に沿って、「接遇・マナー」「人権及び虐待・身体拘束防止」「認知症ケア」等のオンライン研修を実施し、利用者尊重や誇り・プライバシーを損ねない言葉かけや対応については学ぶ機会を設けている。また、「虐待の芽チェックリスト」による自己点検やフロア会議での検討を通して、意識付けを行っている。居室の扉が閉められない事例についてフロア会議で検討し暖簾を設置する等、環境面でのプライバシー保護に配慮し対応している。個人ファイル類はスタッフルームの鍵のかかる棚に保管し、写真の使用については、契約時に文書で同意を得ている。	

グループホーム たのしい家大正

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のご希望を取り入れ、自己決定が困難な方は日頃からの会話や表情で汲み取ることができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを大切にしながらも出来るだけご希望に沿った生活をしていただけるよう支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の協力を得ながら、その人らしいおしゃれができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に応じた盛り付けを行い、食事前には準備等を手伝っていただくことで準備段階からお食事の楽しみを共有していただく。	炊飯と汁物調理は各フロアで行っている。1階のフロアは、委託業者から献立と食材が届き、手作りの食事を提供している。2階のフロアは、利用者の状況により、現在は委託業者から届く調理品を湯煎して提供している。利用者の状況に応じた食事形態には、ムース食には委託業者が、それ以外には各フロアで対応している。月に1回特別メニューの日を設け、利用者の希望や行事を取り入れた食事やおやつを手作り調理したり購入したり、変化を楽しむ機会を設けている。野菜のカット・盛り付け・後片付け等に、可能な利用者が参加できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせた食事形態で提供を行い必要なケアを支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後促しや声掛けにて磨いていただき、ご自身で行えない場合でも支援を行います。又、訪問歯科が来られた際には職員に指導をもらい入居者様へのケアにつなげている。		

グループホーム たのしい家大正

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個別の状況に合わせた時間で声掛けや誘導を行っている。	タブレット内の排泄記録で、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握している。排泄の自立度に個人差が大きい状況であるが、個別に声かけ誘導を行い、二人介助でも対応しながら、可能な限りトイレでの排泄が継続できるよう支援している。介助方法や排泄用品の使用について検討事項があれば、朝の申し送り等で提案し、申し送りノートで共有したり、フロア会議で検討し、現状に即した支援につなげている。同性介助を基本とし、トイレや居室のドアを閉める、タオルを使用する等、プライバシーへの配慮の周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録にて個々の排泄状況を把握し、便秘時など往診医の指示のもと、内服薬や頓服薬を使用し排便コントロールを心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回を基本としているが、必要に応じてその他の日も入浴を楽しんでもいただけるよう支援している。	週2回の個浴槽での入浴を基本としているが、利用者の身体状況や重度化に応じて、2人介助・シャワー浴・清拭でも対応している。日時や回数も、利用者の体調・体力や気分に応じて柔軟に調整している。同性介助を基本とし、入浴拒否があれば声かけやタイミングを工夫し、個別の配慮で対応している。一人ずつ湯を入れ替え、職員との会話を楽しんだり、しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤の使用等、入浴をより楽しむ工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室に戻れる環境を作っているが、生活リズムが狂わないよう注意している。		

グループホーム たのしい家大正

評価 自己	評価 外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個々のファイルにて管理しており副作用に注意しなければならないことも記載している。薬の変更等があれば随時更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内でのレクリエーションや家事、飾りつけづくりなど、それぞれ状況に応じた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前に比べ散歩や外食の機会が減少しているが、玄関先での外気浴・感染対策を徹底したうえでの短時間の散歩などを継続的に行っている。	コロナ禍以前は、散歩や買い物等の日常的な外出、外食、地域行事への参加、季節の外出行事等、積極的に外出支援を行っていた。コロナ禍のため通常の外出は休止しているが、時間帯を勘案し、玄関先のベンチで外気浴を行ったり、商店街や公園に散歩に出かける等、戸外で気分転換が図れるよう工夫している。また、時期や場所を選んで、初詣にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内でのお小遣いを管理し、趣味趣向品などで使う機会を持てるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様・ご家族様にご希望がある際対応している。又、ご入居者様に年賀状を作って頂きご家族様との交流を図っている。		

グループホーム たのしい家大正

評価部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様の居室を少しでも馴染みのあるお部屋にさせていただくため、表札や、ご自身のお写真、レクリエーションで作成した作品などを張るようにしている。	館内の壁紙を張り替え、組み替えができる六角形のテーブル・適所にソファや椅子を設置し、明るく居心地よく過ごせる環境づくりに努めている。空気清浄機・加湿器を設置し、定期的な換気・消毒により、温湿度管理・衛生管理を行っている。利用者と一緒に制作した季節や行事に応じた作品を飾り、季節感が感じられる。食事の準備・後片付け、洗濯物たたみ、居室の掃除等に可能な利用者が参加できるように支援し、生活感を取り入れている。ユーチューブも活用しながら、好みの音楽や番組を視聴したり、体操・歌・折り紙等をレクリエーションに取り入れ、共用空間で楽しく過ごせるよう工夫している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にも椅子やソファを置きちょっとしたスペースでも寛いでいただけるよう工夫をしている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具やお写真などをご持参していただけるよう入居前に依頼をしている。	各居室に、ベッド・クローゼット・コールボタン・換気扇等が備え付けられている。箆箭・テレビ・冷蔵庫等の使い慣れた家具や道具、家族の写真・趣味の道具(編み物・大正琴)等の馴染みのあるものが持ち込まれている。レクリエーションで作成した自作の作品も飾られている。居室前に表札と目印になる写真や飾りを付け、部屋間違いがないよう工夫している。居室担当の職員を設け、家族と連携しながら衣替えや物品購入を行い、環境整備を行っている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報を共有し一人一人の支援に活かしている。		